

第 62 号
2010. 2

北海道 米麦改良

麦作



融雪促進と排水促進

お知らせ

平成21年度米麦生産技術講習会開催中



会報誌「北海道米麦改良」はホームページでもご覧になれます。
<http://www.beibaku.net/>

社団法人 北海道米麦改良協会

売れる米を 低コストで 安定生産

めざそう 小麦の 品質向上

農産物検査の信頼性確保
を目指して

JA グループ北海道は一丸となって
農産物検査の信頼性確保に努めています

も く じ

麦作 融雪促進と排水促進…………… 1

お知らせ 平成21年度米麦生産技術講習会開催中…………… 4

麦 作

融雪促進と排水促進

北海道農政部食の安全推進局 技術普及課 主査 久保勝照

融雪の状況を農業試験場の作況データでみると、平成19年以降平年よりも早い状況が続いている。しかし、融雪の遅れは小麦の生育に影響を与える。春の農作業を順調にスタートさせるためにも、融雪促進と排水促進は欠かせない作業である。

1 融雪促進

(1) 秋まき小麦における融雪促進の効果

試験場における根雪終日は表1の通りである。上川農試においては登熟日数（出穂期～成熟期の日数）と生育期間（根雪終～成熟期の日数）が短いのが特徴である。

融雪の早晩は、雪腐病の被害発生、茎数・穂数の確保、出穂期に影響を与える。根雪終日の遅れは出穂期の遅れに繋がり（図1）、出穂期の遅れは登熟日数の短縮に繋がる（図2）傾向がある。登熟日数と生育期間が短い

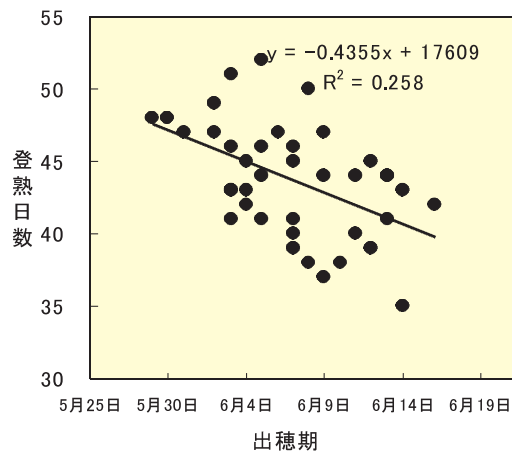


図2 出穂期と登熟日数

(平成12～21年、農試作況調査)

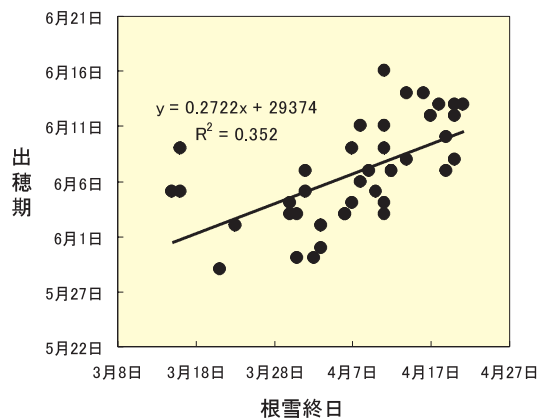


図1 根雪終日と出穂期

(平成12～21年、農試作況調査)

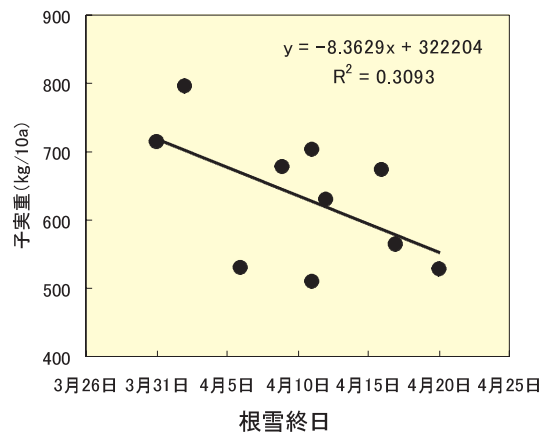


図3 根雪終日と子実量

(平成12～21年、上川農試作況調査)

表1 試験場における根雪終日と生育期節

	根雪終日	出穂期	成熟期	登熟日数	生育期間
中央農試	4月1日	6月4日	7月18日	44	108
上川農試	4月10日	6月6日	7月16日	40	98
十勝農試	4月7日	6月6日	7月21日	45	105
北見農試	4月8日	6月8日	7月25日	46	108

H12～21年、農試データの平均

上川では、根雪終日の遅れが収量の低下につながる傾向が見られる(図3)。融雪の促進は出穂期を早め、登熟日数を確保し、子実重の増加に繋がる。

(2) 春まき小麦における融雪促進の効果

春まき小麦は、早播きすると生育期間は長くなる(図4)。生育期間を確保することが多収に繋がる(図5)。

また、は種時期が早いほど出穂が早まり赤かび病の発生は少なくなり、DON濃度も低下する傾向がある(表2)。春まき小麦の安定生産のためには融雪促進は欠かせない作業である。

ただし、初冬まき栽培においては、融雪を早めすぎると土壌の凍結により越冬した春まき小麦が凍害を受けることがあるので注意が

必要である。

(3) 融雪剤の散布

積雪量や温度条件によって異なるが、融雪剤の散布により7~10日程度の融雪促進効果が期待される。融雪の遅れる地域では融雪促進日数が多くなる事例も見られる(表3)。

融雪剤の散布適期は、日平均気温が-3℃以上になり、20cm以上の積雪の確率が少なくなった頃とされている。その時期は、道北地方では3月下旬、網走地方では3月中~下旬、十勝地方では3月上~中旬、道央地方では3月中旬である。3月末に自然状態で融雪期を迎える地域では、人為的に融雪期を早める必要性は小さい。

融雪剤は、資材の特性や効果により選択する(表4)。融雪剤の散布後20cm以上の積雪があった場合は再散布が必要である。

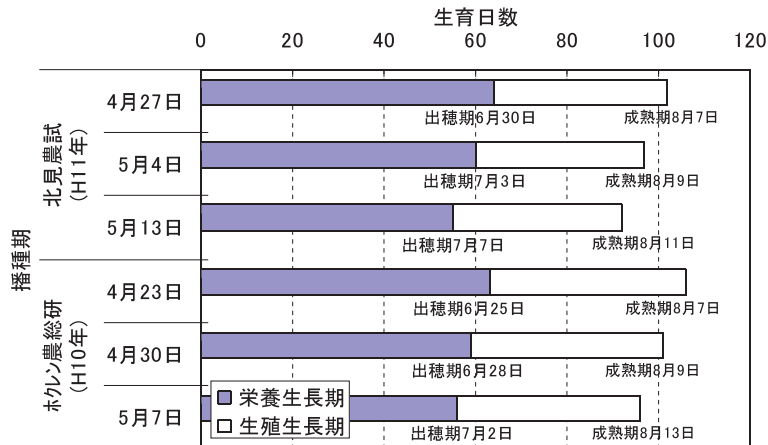


図4 播種期と生育日数 (品種：春よ恋)

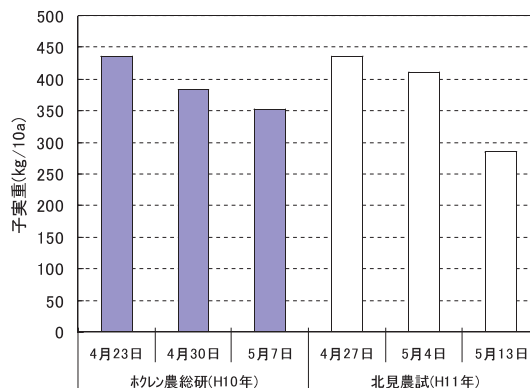


図5 播種期と子実重 (品種：春よ恋)

表2 播種時期による赤かび病発生程度およびDON濃度の比較 (平成14年、中央農試)

供試品種	播種時期	薬剤散布	出穂期 (月日)	発病穂率 (%)	赤かび粒率 (%)	DON濃度 (ppb)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)
ハルユタカ	4/12まき	無散布	6/09	6.0	1.20	1389	434	42.5
	4/22まき	無散布	6/16	10.3	2.00	1286	420	41.5
	5/1まき	2回散布	6/23	45.0	3.30	5640	182	35.3
春よ恋	4/12まき	無散布	6/09	3.3	0.53	534	404	43.6
	4/22まき	無散布	6/14	4.7	0.67	538	451	44.7
	5/1まき	2回散布	6/22	18.0	1.00	2545	302	38.3

表3 融雪材の散布効果 (平成15年、上川農試)

区分	消雪日	融雪促進日数	消雪所要日数	日平均減雪深
無散布	4月11日	—	30日	2.3cm/日
散布区	3月27日	15日	15日	4.7cm/日

※融雪材散布日：3月12日 (融雪炭カルー100kg/10a)

表4 融雪剤の特性

資材名	日射 吸収量	効果の 持続性	土壌改 良効果	施用量 (kg/10a)
アッシュ類	○	○	—	40~60
融雪炭カル	○	○	○	60~100
乾土	○~△	○	—	100~150

2 排水促進

水田転作畑では、融雪水による圃場の滞水が、しばしば観察される。また、硬盤層のある圃場においても排水不良が懸念される。圃場の滞水等が懸念される場合は、雪上心土破碎の施工(写真1)や畦切り、溝切りを実施する。



写真1 雪上心土破碎

(写真提供：上川農業改良普及センター富良野支所)

平成21年度 平成22年産に向けた

良質米・良質小麦安定生産技術講習会開催中

稲作

- ◎良質米安定生産のための栽培技術について
- ◎良質米安定生産のための病害虫防除について
- ◎米をめぐる情勢について

※開催地で内容が変わることがあります。

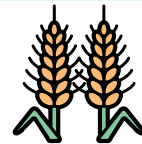


開催日時等		開催場所	
2月18日(木)	※米講習会と合同開催 13:30～	今金町	JA今金町会議室
2月19日(金)	9:30～	北斗市	北斗市農業振興センター
2月23日(火)	※米講習会と合同開催 13:00～	倶知安町	ホテル第一会館
3月9日(火)	※米講習会と合同開催 13:30～	岩見沢市	岩見沢平安閣
3月10日(水)	※米講習会と合同開催 13:00～	厚真町	厚真町総合福祉センター
3月11日(木)	13:30～	滝川市	ホテル三浦華園
3月12日(金)	13:30～	妹背牛町	妹背牛町民会館
3月16日(火)	※米講習会と合同開催 13:30～	札幌市	ガトーキングダムサッポロ
3月17日(水)	13:30～	東神楽町	JA東神楽2階大会議室
3月18日(木)	13:30～	北見市	JAきたみらい2階大会議室
3月19日(金)	※米講習会と合同開催 13:30～	苫前町	苫前町公民館

麦作

- ◎良質小麦安定生産のための栽培技術について
- ◎良質小麦安定生産のための病害虫防除について
- ◎小麦をめぐる情勢について

※開催地で内容が変わることがあります。



開催日時等		開催場所	
2月18日(木)	※米講習会と合同開催 13:30～	今金町	JA今金町会議室
2月22日(月)	14:00～	幕別町	幕別町百年記念ホール
2月23日(火)	※米講習会と合同開催 13:00～	倶知安町	ホテル第一会館
2月23日(火)	13:30～	北見市	北見芸術文化ホール
3月9日(火)	※米講習会と合同開催 13:30～	岩見沢市	岩見沢平安閣
3月10日(水)	※米講習会と合同開催 10:00～	厚真町	厚真町総合福祉センター
3月16日(火)	※米講習会と合同開催 13:30～	札幌市	ガトーキングダムサッポロ
3月18日(木)	13:30～	名寄市	名寄市風連町福祉センター
3月19日(金)	※米講習会と合同開催 13:30～	苫前町	苫前町公民館

◆講師:北海道、ホクレン他関係者。

◆受講対象者:米麦作付生産者ならびに受講希望者(受講料無料)。 ◆お問合せ:各地区米麦改良協会

〈主催〉北海道米麦改良協会・ホクレン・各地区米麦改良協会 〈共催〉北海道

融雪剤散布時期の目安

- 日平均気温が、-3℃以上になる頃。
- 20cm以上の降雪の確率が少なくなった時期。

道北
3月下旬

旭川近辺
3月4~5半旬

岩見沢・札幌
倶知安等
3月4半旬

北見
3月

十勝
3月

道南・日胆地区は山間部の積雪の多い地帯で3月中旬

効果

- 融雪資材散布により、融雪は10日以上早まります。

融雪材の散布量

ケイカル・ミネラル等	アッシュ等
90~120kg/10a当たり (4~6袋、70~120リットル)	40~60kg/10a当たり (2~3袋、80~100リットル)

融雪促進

水田・小麦圃場

排水対策も万全に！



融雪促進

融雪促進の効果

排水促進

- 融雪水は、早期排出。
- 雪上心破を行い、圃場の乾燥を促進。
(春播小麦の圃場)



乾田化のために

- 水田にはケイサン質資材が良い。
- 表面水を早期排水。
- 収穫時のワダチも利用。
- 春鋤き込みは、高タンパク化を助長する。

場合により適時

- 亀裂が入り地温が上昇
- 乾土効果で地力窒素早期発現
- 地耐力(土の重さを支える力)が向上

初期生育の向上

北海道・ホクレン・北集・北海道米麦改良協会

ホームページでもご覧いただけます <http://www.beibaku.net/>

良質米麦の出荷目標



一等米 100%
整粒歩合80%以上確保
精米蛋白質含有率6.8%以下
仕上がり水分14.5～15.0%
入れ目1%以上確保
全量種子更新



一等麦 100%
低アミロ麦皆無
DON暫定基準値1.1ppm
以下でできるだけ低いこと
赤かび粒混入限度 0.0%
異臭麦皆無
十分な入れ目の確保
全量種子更新

農産物検査事業の方針

公平、公正、迅速に行う。
必要な技術的能力の維持・向上に努める。
客観性・公平性から他部門からの影響排除。
制度の適正な運営に寄与する。



発行所

社団法人 北海道米麦改良協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階 TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

【業務部】E-mail beibaku@basil.ocn.ne.jp

【検査部】E-mail beibaku-kensa@carrot.ocn.ne.jp

北海道米分析センター

〒069-0365 岩見沢市上幌向町216の2 TEL 0126-26-1264 FAX 0126-26-5872

E-mail bun1@plum.ocn.ne.jp

<http://www.beibaku.net/>